

Japanese Psychology Research. First published: 13 February 2025

Preschool Teacher Training on Neurodevelopmental Concerns in Children: A Pilot Study

保育所・幼稚園でのティーチャーズ・トレーニング(神経発達に懸念のある子どもに対して)：パイロットスタ
ディ

執筆者

Masako Hamaguchi, Noriko Kitazoe, Ichiro Fukunaga, Christopher Gillberg

概要

保育所・幼稚園でのティーチャーズ・トレーニング(神経発達に懸念のある子どもに対して)は、6回の月例ワークショップと、6回目のセッションの3か月後に行われる1回のブースターセッションで構成され、各セッションは90～105分だった。各保育士・幼稚園教諭は1名の子どもを担当し、セッションごとに異なる介入を行った。ワークショップの前後で質問紙を実施した。46名の参加者のうち、44名の結果を分析した。子どもの強さと困難さアンケート(SDQ)の総合的困難さ(TDS)のスコアは、研修後に大きな効果サイズを伴って有意に減少した。SDQの下位尺度のスコアは、「仲間関係」と「向社会的」でより大きな効果量、「多動」と「情緒」で中程度の効果量を示した。教師のローゼンバーグ自尊感情尺度は、中程度の効果量を伴って有意に増加した。保育者効力感尺度は、効果量は小さく、有意差は見られなかった。したがって、TTは子どもの行動と教師の自尊感情の両方に有益である可能性がある。しかし、この変化が子どもの実際の変化によるものなのか、成長と発達に関する教師の理解の変化によるものなのか、もしくは両方によるものかは不明である。これらの知見を確認するためには、さらなる研究が必要である。

キーワード：ティーチャーズ・トレーニング；ローゼンバーグ自尊感情尺度；子どもの強さと困難さアンケート；保育者効力感尺度；保育士・幼稚園教諭